

設楽の城砦めぐり

じょうさい

—長江城編—

町内に城砦が築かれたのは中世室町時代が多く、北設楽郡史に約四十ヶ所の記載がある。

長江城は鎌倉から南北朝時代に築かれ、町内で最も古い城といわれる。この城は



田平から長江城址を望む

長江字松ヶ根の県道と柴石峠に続く、旧伊那道との間にある山上に位置し、現在杉松林となつてゐる。

山頂に物見・のろし場・山腹に曲輪跡らしい痕跡と、近くにサカモリザ・大井戸・寺所の地名が残る。

源平合戦の軍功で長江壮の地頭職に任命された永江時俊以下十三代の城で、応永三十一年南朝の衰退とともに満綱の戦死後、廃城になつたといわれる。

この城の南東にそびえる大鈴山の中腹に連絡・見張りの役割をした損者砦が築かれていた。

(愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊)